

平成24年10月9日

千葉木鶏クラブ

(331回 例会)

「吉田 松陰」とその時代

富士山が早くも初冠雪、季節は確実に移る中、山中教授（京大）のノーベル賞は内憂外患の国難状況にあつての受賞なるが故に日本人の誇りを奮い立たせてくれた。

更には、受賞に対して「日本が受賞した」「日の丸のおかげ」「家族に感謝」との謙虚なコメントに満腔の敬意を表したい。

一方、現実にも目を逸らすまでもないが世界最古の国家である日本が近隣諸国から脅かされ大難難。国難に遭遇している。

こんな時こそ、我が国の数々の国難の歴史から学ぶ意義はある。

今回は、歴史上の偉人研究者として全国を飛び回っている岡田先生から明治維新立役者「吉田松陰先生」の功績を語っていただきます。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

記

1. 日 時 : 平成24年10月31(水)
PM 15時30分 ~17時30分
2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
<交通案内> JR千葉駅東口から 徒歩8分 駐車場有り
3. 会 費 : 1000円
4. 講 師 : 日本政策研究センター主任研究員
岡田 幹彦 氏



<プロフィール>

昭和21年 北海道生まれ。國學院大學 中退。学生時代より日本の歴史および人物について研究を続け、月刊『明日への選択』に「上杉 鷹山」「勝海舟」などを連載。

著書に『等号平八郎』『明治のサムライたち』などがある。

5. レジューメ

「吉田 松陰」とその時代

(1) 明治維新に始まる近代日本の果たした歴史的偉業

- ・ 欧米の世界支配を打ち破った近代日本の輝かしい出発が明治維新
- ・ 明治維新における最も重要な人物「西郷隆盛と吉田松陰」

(2) ペリー来航と松陰

- ・ 独立国にあらざる土下座外交の徳川幕府
- ・ 日本の危機、国難に対する松陰の憂慮

(3) 挫折と幽囚生活

～かくすればかくなるものと知りながら
やむにやまれぬ大和魂～

- ・ 海外渡航の挫折
- ・ 野山獄での猛烈な読書（600冊を一年六ヶ月で）
- ・ 同囚人への感化



(4) 松下村塾で何を教えたか

- ・世界に比類のない立派な日本の国柄（国体）に対する自覚と誇り
- ・「君臣の義」と「華夷の弁」
- ・欧米の侵略を打ち攘う志を固めなければならない。これが「攘夷」である
- ・弟子たちの心の奥底を揺さぶり日本人の魂を覚醒させた松陰の至誠と祈り

(5) 自らの死をもって志を伝えた松陰

- ・崇高極まりなき捨身殉国の行為は維新回天の大業を成就

<士規七則>

士規七則は、野山獄で松陰が書いたものを、叔父玉木文之進に添削してもらったものである。たまたま、元服した叔父の息子玉木彦介に贈られた。人のあり方、権力を持って人の上に立つ武士のあり方を述べたものである。

冊子を披翻（ひはん）せば嘉言（かげん）林の如く躍々（やくやく）として人に迫る。願（おも）ふに人読まず。即（も）し読むとも行わず。筭（まこと）に読みて之（これ）を行わば、則（すなわち）わち千万世（せんばんせい）と雖（いえども）も得て尽（つくす）くすべからず。

<解説>

書物をひもとけば、立派な言葉が林のようにたくさんあり、勢いよく私たちに迫る。しかし、人は書物を読もうとしない。読んでもそれを実践しない。書物を深く読み、それを実践するならば、千万代かかっても行い尽くすことはできないほどである。

- ・凡そ生まれて人たらば、宜しく人の禽獣（きんじゅう）に異なる所以を知るべし
- ・凡そ皇国に生まれては、宜しく吾が宇内（うだい）に尊き所以を知るべし
- ・士の道は義より大なるはなし。義は勇に因りて行われ、勇は義に因りて長ず。
- ・士の行は、質実、欺（あざむ）かざるを以って要と為し、巧詐（こうさ）、過ちを文（かざる）るを以って恥と為す。
公明正大、皆是より出づ。
- ・人古今に通ぜず、聖賢を師とせんずば、則なわち卑夫（ひふ）のみ。読書尚友は君子の事なり。
- ・徳と成し材を達するには、師恩友益多きに居（お）る。故に君子は交遊を慎む。
- ・死して後（のち）已（や）むの四字は言簡（げんかん）にして、義広し、堅忍菓決（けんになんかけつ）、確固として抜くべからずものは、是れをおきて術（すべ）なきなり。

志を立てて以って万事の源と為す。

交を択（えら）びては以って仁義の行を輔（たす）く。

書を読み以って聖賢の訓（おし）へを稽（かんが）ふ。

「野山 獄文稿」

<解説>

あらゆる事の根本は、志を立てることである。

仁かにもとづいた行いは、人との交際を大事にすることである。

聖人の教えを今に生かすには、書物を読むことである。

※ 吉田松陰先生は、

神が日本を救う為にこの世に下した天の使い。（天使）明治維新を導いた最高の人物
[千葉木鶏クラブ事務局 丸島 忠夫 Email : marushima_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp)

[1/Fax:0475-25-121](tel:0475-25-121)